

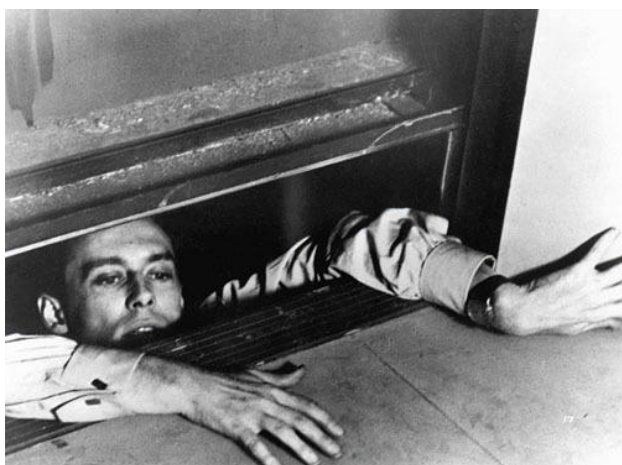
2015.1.15
vol.36

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

死刑台のエレベーター



1月15日(木)

① **10:30 ~ 12:05**

② **14:00 ~ 15:35**

ノエル・カレフの推理小説を、製作当時25歳だったルイ・マルが監督した傑作サスペンス。パリの土地開発会社の重役ジュリアンは、その会社の社長夫人フロランスと不倫関係にあった。情事の果て、2人は社長を自殺に見せかけて殺す完全犯罪を計画し、実行に移すが、犯行直後、会社のエレベーターが停電で止まり、ジュリアンが閉じ込められてしまう……。

監督：ルイ・マル

音楽：マイルス・デイヴィス

出演：ジャンヌ・モロー

モーリス・ロネ

製作：1957年フランス モノクロ

上映時間：92分

サロン・ド・シネマ

場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。
映画の上映前にご利用ください。

また、午後の部の上映終了後に、2階の活動コーナーにおきましてスタッフの打合せをしています。上映会の運営に関心のある方は、お気軽にご参加下さい。



映画を読む

『死刑台のエレベーター』

“ヌーヴェルバーグ”の幕開け K.M.

この作品の監督ルイ・マルは、16歳でバカロレア（大学入学資格）を獲得し、ソルボンヌ大学で政治科学を専攻しましたが、お決まりのエリートコースには進まず中退し、フランス国立高等映画学院に入学。21歳で著名な海洋探検家ジャック・イブ・クストーの海洋記録映画『沈黙の世界』の水中カメラマン兼共同監督、ロベール・ブレッソン監督の『抵抗』で助監督を務めた後、独立プロを設立します。『死刑台のエレベーター（1957）』は、その第1回作品です。ルイ・マル 25歳の時でした。ルイ・マルの斬新な感覚が随所に光るこの作品は、フランス映画の中で最も前衛的で芸術性の高い作品に与えられるルイ・デリュック賞を受賞し、この頃からフランス映画界に起こり、世界各国の若い映画人に大きな影響を与えた“ヌーヴェルバーグ（新しい波）”活動の幕開けを告げる作品となりました。

この作品は、ストーリー展開の面白さから登場人物の心理描写・音楽、そしてカメラワークに至るまで非常に凝っていて、まるでタペストリーを織るように見事に調和されており、私もいつべんに魅了されました。完全犯罪の計画が偶然のいたずらで破綻していくサスペンス、不倫の恋に身を焦がす人妻を演ずるジャンヌ・モローの存在感、都会の倦怠と孤独を奏でるマイルス・デイヴィスのトランペット、モノクロ映像でしか現わせないだろうと思える夜のシャンゼリゼの光と影の効果など、この作品の素晴らしいさは随所に見つかります。

しかし、当初一点気になったのは、元パラシュート降下部隊の英雄という設定の主人公ジュリアンの犯行にしては、あまりにあっけないミスが多すぎる点でした。「ルイ・マルとその仲間の素晴らしい創作力をもってすれば、もっと緻密な犯罪計画にすることは簡単だったように思われるのに？」ということで資料類を調べた結果、この危うさが、実はルイ・マルの計算された意図であったらしいというヒントにぶち当たり、この作品の魅力が深まりました。

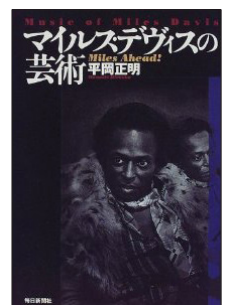
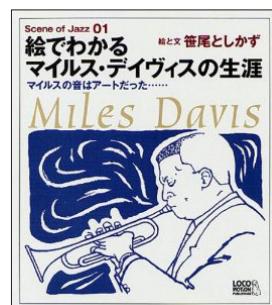
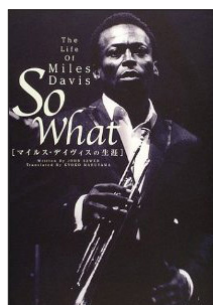
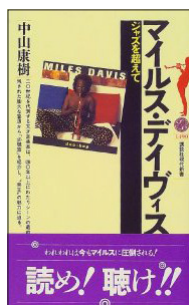
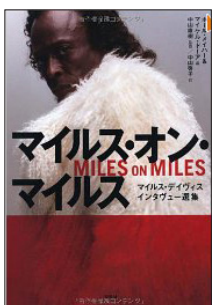
ルイ・マルにとってこの作品は、当時の若者にとっての「かっこいい」、「ナウい」、「大人っぽい」というあり方と、その時点での不完全さを表現しようという、実験的プロジェクトの色彩も帯びていたということです。この作品の巻頭から巻末迄を彩ったマイルス・デイヴィスのモダン・ジャズ10曲のサウンド・トラックが、撮影直後のフィルムを見ながらの、たった4時間のスタジオ・セッションですべて録音されたという挿話（実話らしいです）は、このような背景の一端を物語っています。監督ルイ・マル 25歳、脚色ロジェ・ニミエ 32歳、音楽マイルス・デイヴィス 31歳、モーリス・ロネ 30才、ジャンヌ・モロー 29歳。若い彼らのコラボレーションによってこの作品が作り上げられていった熱っぽいプロセスをもっと調べてみたい気がします。

なお、ルイ・マルが「ナウい」というフィーリングの表現に、随分いろんな大道具・小道具に凝っているのも可愛い感じがして興味深いです。無軌道なパリの若者カップルが逃走に使う Mercedes Benz 300 SL クーペ（当時、石原裕次郎の愛車としても有名でした）、衝撃のラストシーンを演出した西ドイツ製の超小型高性能カメラ・ミノックス（今でも熱烈なファンクラブがあります）、おしゃれなガスライター・日めくり時計・電動鉛筆削りなどなど。

Mercedes Benz 300 SL クーペ



『外国映画ぼくのベストテン 50年』	双葉 十三郎	近代映画社	N 778.2
『20世紀の映画 (Mook21)』		共同通信社	N 778.2
『20世紀の映画監督名鑑 (Mook21)』		共同通信社	N 778.2
『映画は語る』	淀川 長治	中央公論新社	N 778.0
『いい映画を見に行こう』	植草 甚一	晶文社	N 778.0
『ヌーヴェル・ヴァーグの時代』	細川 晋	エスクァイアマガジンジャパン	778.2
『ヌーヴェル・ヴァーグの時代』	遠山 純生	紀伊国屋書店	N 778.2
『美しい人の美しい生き方』	中丸 薫	徳間書店	N 778.2
『映画館へは、麻布十番から都電に乗って。』	高井 英幸	角川書店	778.04
『映画でお散歩パリガイド』	ジュウ・ドウ・ポウム	ジュウ・ドウ・ポウム	778.235
『いい映画にはいい雰囲気がある』 団塊世代が選んだ120本の映画感傷	上原 徹	アートダイジェスト	778.2
『オールタイム・ベスト映画遺産映画音楽篇』		キネマ旬報社	N 778.2
『サウンド派映画の聴き方』	小沼 純一	フィルムアート社	N 778.0
『コーヒー一杯のジャズ』	植草 甚一	晶文社	N 764.7
『マイルス・デイヴィスの生涯』	ジョン・スウェッド	シンコーミュージック・エンタテイメント	N 764.7
『マイルス・オン・マイルス』	マイルス・デイヴィス	宝島社	N 764.7
『マイルス・デイヴィスの芸術』	平岡 正明	毎日新聞社	764.7
『マイルス・デイヴィス』 神話の検証	田中 公一朗	勁草書房	764.7
『マイルスに訊け』	中山 康樹	イースト・プレス	764.7
『絵でわかるマイルス・デイヴィスの生涯』	笹尾としかず	ロコモーションパブリッシング	N 764.7
『マイルス・デイヴィス ジャズを超えて』	中山 康樹	講談社	764.7
『マイルス・デイヴィスとは誰か』	小川 隆夫	平凡社	1764.7



インフォメーション

上映時の非常時対応について

今年度6月と9月の上映会におきまして、ご来場の皆さまに上映開始までの時間を利用して、非常時の対応について職員やホールスタッフにもご協力いただき、ホールが停電になるという体験と、地震と火災の場合のアナウンスと対処についてご案内させていただきました。

【停電の場合】

停電のときはいきなり電源が落ちますが、すぐに非常照明が点灯します。非常灯は結構明るく、りぶらホールには、階段席の右と左・後ろ右左の4カ所に非常口があることを確認していただきました。

【地震や火事の場合】

震度3以上が予測される場合や火災が発生した場合には、館内放送があります。その場合は、映画上映時の音声は自動的に切り替えられ、ホール内に放送が流れます。地震の場合、実際には放送の途中で揺れがある場合や、先に揺れがある場合も想定されます。来場者の皆様は、席を立たないで、その場で低い姿勢をとり、揺れが収まりましたら、ホールのスタッフの指示に従ってください。

【環境の認識】

りぶらホールが、りぶらのどの辺りに位置するのか、館内の名称や出入り口をしっかりと確認しておきましょう。

【非常時の心得】

- ① 慌てない。一番危険なのは、避難時の転倒です。
- ② 職員の指示に従いましょう。
- ③ 子どもや障害者・高齢者を優先して、落ち着いて避難しましょう。

『武器よさらば』感想

- ・戦争中に愛のため戦線を離れて恋人に寄り添う勇氣に感動しました。
- ・80年前の映画が観れて感動しました。
- ・戦場の映画と思って来ましたが、愛の映画で驚くとともに新しさもありました。
- ・一途に愛をつらぬくゲーリー・クーパーがかっこいいです！でも、私は『モロッコ』の方が好き
★今度はディートリッヒ作品を上映して下さい！
- ・貴重な映画をやっと観られた。クーパーの素晴らしさ再確認。時代感覚は新しく、いつの時代も愛は美しい。
- ・とてもラストシーンがよかったです。若き日のゲーリー・クーパーに会えました。
- ・ゲーリー・クーパーもよかったです。女優もスバラシイ。
- ・戦争時や平和な時代に関係なく、あんなに人を恋うことができるって素晴らしい。その愛とか恋とかが、今の時代に欠けていると思います。
- ・若い頃に見た時と違い、73才になって想いがよくわかりました。
- ・感動です。泣いちゃった。戦争はダメダメダメ。
- ・強烈な反戦映画と思いました。
- ・過去に見た中で最高のアメリカ反戦映画は『ジョニーは戦争へ行っただ』。もう一度みたい。(83才)
- ・素晴らしい。よかった。ジョン・フォードの『荒野の決闘』を上映して下さい。
- ・邦画もいいですよ。
- ・何時もよい映画をありがとう。これからもよろしくお願いします。よかったです！！
- ・大変よかったよ。ガンバッテね。
- ・It was nice!
- ・夜間上映、休日上映も考えてほしいです。
(平日の昼間はとて来にくい。)

「シネマ・ド・りぶら」の賛助サポーター 受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円（各回6名まで）
申込みは、1週間前までに
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312